

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

1 本年度の重点目標（目指す学校像）

2 学校運営の重点

生徒一人一人の生きる力を具現化する学校

生きる力～自分らしく生きる力、実生活で生きてはたらく力、共に生きる力

- ・誰にでも居場所がある ～多様性が支持される、傾聴してくれる人がある
- ・「～したい」を実現する活動がある ～大切にしたい合唱の取組、「育てる」から「育つ」へ
- ・温かいあいさつが響く ～相互承認を高める第一歩として

- ◎ 「学ぶ力～自ら課題を見付け、自ら学び、自ら課題を解決する資質・能力」の育成を目指した「課題探究的な学習」と「自治的な活動」の充実
 - ～未来において生きて働く学びとなるような「本物の経験」を創出する
 - ◎ 解決しなければならない本校の課題：不登校対策の創造
 - ～「通いたくなる学校・居場所のある学校・つながりのある学校」を具現化する
- ①生徒がやりがいを感じる授業、特別活動・学校行事、道徳、総合的な学習の時間を工夫する
 - ②「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深いまなび」を実現する
 - ③全教職員とスタッフがチームで生徒一人一人の自立を支援する
 - ④子ども一人一人の教育的ニーズに応じた支援・教育を推進する
 - ⑤家庭や地域とともにある学校づくりを推進するとともに、教育活動を積極的に発信する
 - ⑥学校職員のウェルビーイングを目指し、誰もが働きやすい職場をつくる

評価方法

各質問項目において、A そう思う、B だいたいそう思う、C あまり思わない、D そう思わないなどの4段階で評価をするアンケートを実施。Aを4点、Bを3点、Cを2点、Dを1点として、平均値を算出する。平均3.0以上を評価A、平均2.0～2.9を評価B、平均1.9以下を評価Cとしている。

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価			学校関係者評価		生徒による評価			保護者による評価			
		中間評価	期末評価	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ	質問項目	中間評価	期末評価	質問項目	期末評価		
重点目標・方針	学校課題・目指す学校像・運営の重点が共有され、学校・学年・学級経営、各校務において取組の改善が図られている。	A (3.3)	A (3.4)	各校務・各学年で運営の重点に沿って学校評価の結果を分析し、自己評価へとつなげる。そして、そこで検討された内容を基に、次年度の方策について教育課程検討委員会で協議し決定していく。	A	A	/						
学校関係者評価委員による意見	現在の学校の状況について適切に評価されており、改善策についても妥当である。職員一人一人が主体的に自らの学びを深めていけるような仕組みづくりを更に丁寧に工夫していくと良い。												
重点①	生徒が「～したい」という意欲をもち、主体的に参画できる行事や委員会活動の創出ができています。	A (3.4)	A (3.2)	教育活動が3年間の見直しを持った計画となるよう全体計画の見直しを図っていく。行事では、生徒が主体となって活動できる場の設定や、時間の確保をしていきたい。また、教師、生徒がともにねらいを共有した中で活動を行うとともに、教育活動全体へのつながりを意識した取組にしていきたい。	A	A	自分たちの『～したい』が実現できるように、自分たちの意思が尊重されている。	A (3.2)	A (3.2)	子どもが、学校生活をはじめとした様々な活動において、何を願い、どんなことを『したい』と感じているのかを話をすることがある。	B (2.9)		
	学習や日常の活動において失敗から学ぶ場や相互理解を生み出す対話の場などを創出し、未来に生きて働く学びのきっかけとなるような「本物の経験」を生み出すことができています。	A (3.0)	A (3.2)				自分たちの問題を自分たちで解決できるように、お互いに協力したり、周囲から必要な支援を受けたりすることができている。	A (3.4)	A (3.4)				
学校生活や学校行事を通して、仲間と協力するなど自分自身の成長を実感できている。	A (3.4)	A (3.4)	学校生活の中で、教育相談などを通じて先生方が親身なって考えてくれていると実感できる。	A (3.4)	A (3.5)								
自分たちの行動や、それによって起きた結果に対して、責任があることを自覚している。	A (3.2)	A (3.3)	学校や家庭、地域の中で、「自分もその一員である」ことを実感し、お互いに大切にすることができている。	A (3.3)	A (3.4)								
学年集団や学校全体が自分が成長し、安全に過ごすための環境であると思える。	A (3.4)	A (3.4)											
学校関係者評価委員による意見	子どもの「～したい」という願いを積極的にとらえながら、学校行事などを通して子どもたちが何を学び、自らの成長ととらえているかを丁寧に見取り、その様子を適切に評価していくことができると良い。												
重点②	生徒の実態に即した指導計画・評価計画を作成し、生徒に見直しをもてるような授業を行っている。	A (3.3)	A (3.2)	各教科において単元計画や評価計画の見直しを行っていく。特に、評価基準については、生徒への示し方や活動の見取り方について十分に検討していく。また、全体研修の中で、AARサイクルを意識した授業計画づくりや、生徒に見直しを持たせる導入の方法などについて全体での取組となるよう、研修を計画していく。	B	A	各教科の学習では、課題や目的を見出して取り組むことができています。	A (3.1)	A (3.1)			学校の授業では、子どもがどんな学習をし、どのように取り組んでいるのかを話をする機会があり、学習状況を把握することができている。	B (2.6)
	生徒自身が自己選択・自己決定したり、他と対話することで思考を再構築したりする活動を通して、学びを深めていけるような授業が進められている。	A (3.2)	A (3.2)				各教科の学習では、自分で考えたり、調べたりする活動が行われている。	A (3.4)	A (3.4)				
	生徒の授業評価や評価・評定の結果等から、生徒の学習改善や教員の授業改善が進められている。	A (3.5)	A (3.3)				各教科の学習では、まわりの人と協力して結論を出したり、お互いの考えを交流したりする活動が行われている。	A (3.4)	A (3.3)				
各教科の学習では、自分の学習状況を確認し、次の学習につなげるための振り返りの場面がある。	A (3.3)	A (3.3)											
学校関係者評価委員による意見	単元テストを行う意義や評価・評定の方法を変更してきたねらいについて、子どもや保護者と共通理解を更に図り、子どもの学びを学校と家庭で支えていく必要がある。また、学校HPへの説明文書の掲載をはじめ、繰り返し丁寧に説明をしていくことが肝要である。												

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価			学校関係者評価		生徒による評価			保護者による評価	
		中間評価	期末評価	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ	質問項目	中間評価	期末評価	質問項目	期末評価
重点③	いじめの未然防止、早期発見に向け、日常の観察や気づきメモ等を利用して、きめ細かく生徒の様子を把握し、教職員で情報共有できている。	A (3.7)	A (3.3)	学校の相談体制については、保護者評価も高く、取組の方向性は良いと考える。今後も、現在の取組を継続し、丁寧な情報共有に努めていく。	A	A				家庭での子どものようすや、学校での出来事で気になることがあったときには、学級担任や学年所属の教員、スクールカウンセラーなどと連絡を取り、必要な相談ができる体制がある。	A (3.0)
	生徒の家庭環境や特性など、個々の生徒の実態をとらえた支援をする体制が整えられている。	A (3.6)	A (3.5)		A	A					
学校関係者評価 委員による意見	子ども同士の支え合い、助け合いの関係性が育っているかをどのように見取るのかを検討していくことが必要である。そして、個と集団のバランスよい育成を目指し、しっかりと実態把握をしながら、子どもが目の前の壁を一つずつ乗り越えていくことができるよう支援していくと良い。										
重点④	個々の生徒の実態を捉え、担任・学年が主体となって、SCや学びの教室等と連携しながらチームで生徒支援ができています。	A (3.8)	A (3.5)	一人ひとりの教育的ニーズの把握や分析を充実させるため、個々の生徒について交流する時間を設けたり、特別支援コーディネーターを中心とした校内学びの支援委員会の取組を充実させていきたい。	A	A				子どもが学校生活や学習に対して、何を課題と感じているか学校と家庭で共有し、学校・生徒・保護者の三者で実現可能な具体的支援について話し合いながら進めることができている。	B (2.8)
	子ども一人ひとりの教育的ニーズの把握、共有が図られ、それぞれに合った学びの保障に向けた取組を進めることができている。	A (3.4)	A (3.3)								
学校関係者評価 委員による意見	個別の生徒支援については、学校と家庭で連携し、それぞれの役割を果たしながら協働的に子どもを支えることが重要である。子どもにとって必要な支援を実現させていくために、学校と家庭での話し合いを丁寧に進めていくと良い。										
重点⑤	小中一貫した教育をパートナー校と協力して進め、CSを導入し、子どもたちの成長を継続的に支えていく準備が進められている。	A (3.2)	A (3.4)	学び、生徒支援、生徒活動のCS担当者を中心として、CS全体の取組のねらいや、それぞれの部の活動内容について、教職員に周知していく。また、それらの活動内容について学校HP等を活用し、地域に開かれた学校づくりを全体で進めていく。	A	A				学校ホームページや学校だより、すぐーるによる配信などから、学校の取組について、情報を得ることができている。	A (3.3)
	学校運営や各取組のねらい、目指すものを家庭や地域に発信し、理解や協力を得られている。	A (3.2)	A (3.2)								
学校関係者評価 委員による意見	コミュニティスクール全体のねらいや具体的な活動を職員に周知し、理解を深めた上で次年度の活動につなげていくこと重要である。また、情報発信だけでなく、地域や家庭の意見も聴く機会をつくるなど、互いに子どもより良い成長のために何ができるかを出し合える体制をつくっていくと良い。										
重点⑥	校内の雰囲気がよく、職場で良好な人間関係が築けている。	A (3.2)	A (3.3)	日常的なコミュニケーションを大切にし、個々が抱えている悩みや問題を互いに共有したり、相談したりしやすい環境づくりをしていく。また、各校務・学年の業務内容を整理・検討し、業務全体が円滑に進むようにしていくとともに、様々な取組のねらいを教職員全体が理解しながら進められるよう、各校務・学年で提案することを重視していきたい。	A	A					
	職員全員がそれぞれの役割にモチベーションや意義をもち、目指す学校像の実現に向けて取り組むことができている。	A (3.1)	A (3.0)								
	業務に達成感や満足感を感じている。	B (2.8)	A (3.0)								
学校関係者評価 委員による意見	教育活動全般において、職員全体でねらいを共有し、共通理解を図りながら業務を推進していくことが重要である。様々な取組を焦点化しながら改善し、職員一人ひとりが成果を感じながら前に進める職場文化の醸成をしていくと良い。										